

仙台BOSAI-TECHカンファレンス2023

**誰一人取り残されないを実現！
デジタルケア避難所システム**

都城市デジタル統括課 佐藤 泰格

R5.3.7

■ 開発に至った経緯

災害多発地域

- 台風の通り道
- 新燃岳噴火（平成23年）

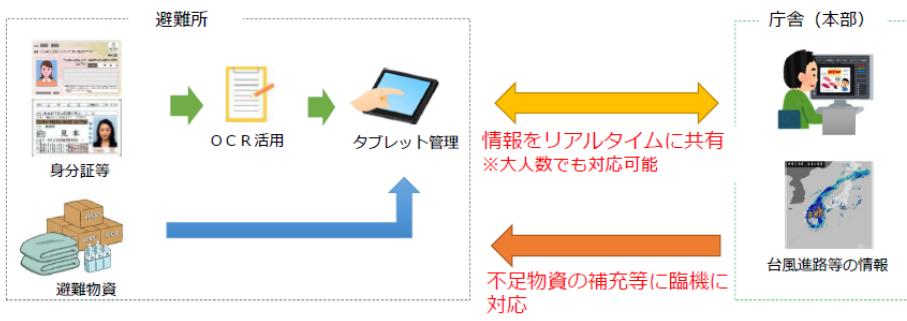
自身の経験

- 避難所業務に従事
- 東日本大震災派遣（平成23年短期派遣※避難所運営、平成24～25年長期派遣※用地取得）

5.1 事業内容

避難所管理システムの構築

- 避難者に手書きの負担を強くないよう、タブレットにより運転免許証等をOCRで読み込み、必要事項を追記し、本部と共有するシステムの構築
- 備品・物資管理も同システムにより実現
- 本部から避難所への情報伝達手段としても活用



総務省

「令和元年度地域IoT実装のための計画策定・推進体制構築支援事業」成果報告会

■ 事業実施の背景（後押し）

災害の激甚化・頻発化

- 国土交通白書等にも明示

避難所における業務量増

- 避難所での対応業務の増
- 職員数の削減
- 早期避難の増
- コロナへの対応

避難者ケアの必要性

- 避難者の高齢化
- 避難者の単独化

本傾向はさらに加速

人にしかできない業務へ

避難先選定・入所の手間

「住民サービス向上」と「避難所運営の効率化」を両立

■ デジタルケア避難所の構築

① 書かない入所

② 避難所混雑状況の可視化

③ 避難所内の情報収集・発信の簡素化

④ 備蓄品管理の効率化

⑤ 災害対策本部 – 避難所間の情報共有

⑥ 避難者情報の各種利活用

実証事業として令和3年度スタート(with Gcom)

■ 書かない入所

① マイナンバーカード

暗証番号を入力し、カードICチップの情報を読み取り

② 身分証読み取り

運転免許証等の身分証の券面情報をOCRで読み取り

③ QR受付

避難者が事前登録した情報をQRを介して読み取り

④ 口頭受付

上記①～③が利用できない場合の手法



■参考：事前登録サービス



平時に自身のプロフィールを登録してもらうことで、発災時に簡単な操作でQRを発行することが可能

QRを見せるだけで避難所受付が完了

■ 避難所混雑状況の可視化

書かない入所を実現することにより、リアルタイムでの入所人数を把握可能



直感的に最寄りの空き避難所を探すことが可能

避難所毎の空き状況を人数で確認することが可能

常にリアルタイムの避難所情報を確認可能

■ 避難所内の情報収集・発信の簡素化

現在の情報収集・発信手段はインターネット
全一次避難所にWi-Fiを設置

■ 備蓄品管理の効率化

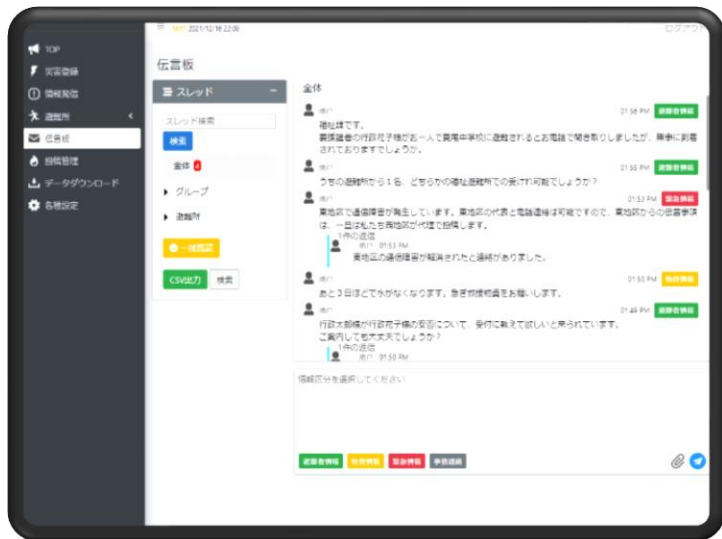
品名	在庫数	必要数	消費期限	消費期限まであと
食料	100	100	2021/11/30	-17日
飲料	100	100	2021/11/30	-17日

事前に避難所ごとに在庫設定を行うことで本部で一元管理が可能

- 避難所定員数に対する所要量
- 実避難者数に対する所要量
- 消費期限に対する残日数

■ 災害対策本部 – 避難所間の情報共有

必要な情報を、必要なときに、必要なヒトが、入手できるように



本部から全体発信と個別発信が可能

記録をダウンロードし、報告書作成に活用可能

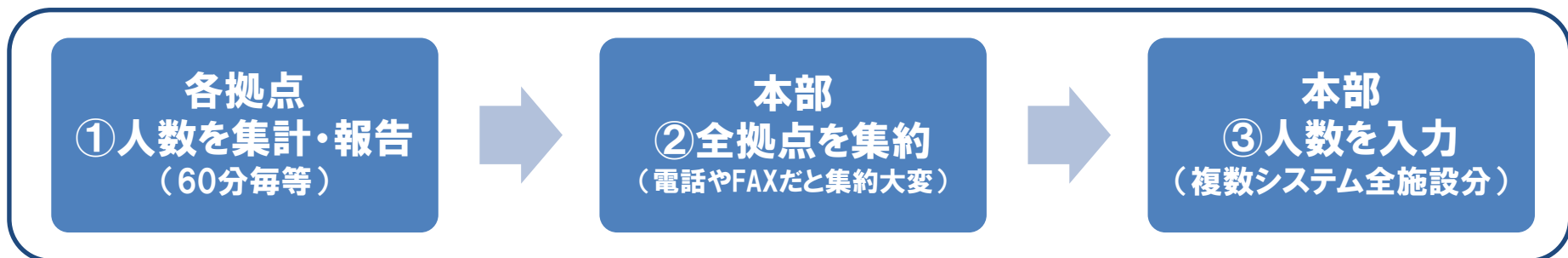
表示する投稿を限定し、スムーズに確認可能

事務引継の効率化も実現

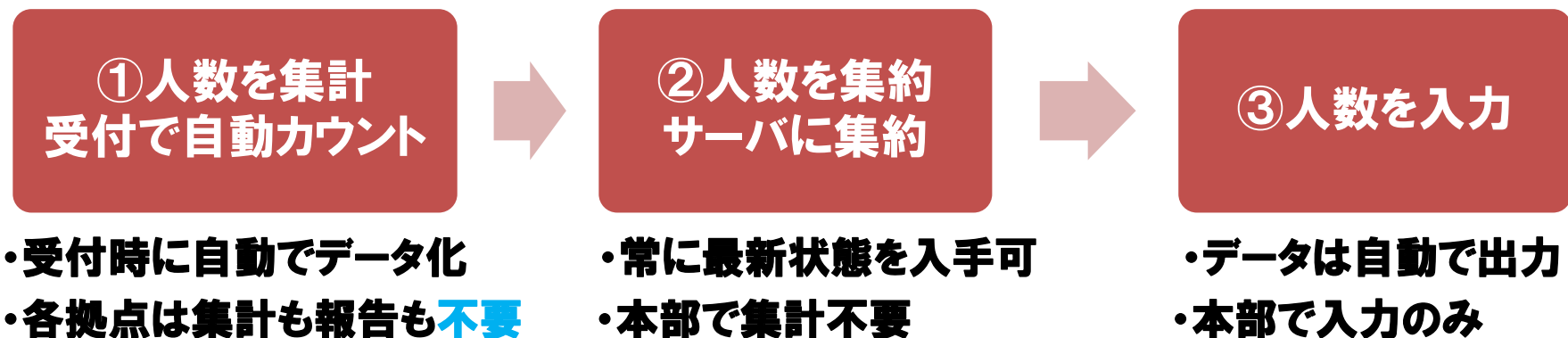


■ 避難者情報の各種利活用

避難者情報を毎時自動集計するため、定時報告は不必要



サービスを導入後



マスコミからの問い合わせ対応も効率化！